

コカ-コーラ (KO)

【セクター】 飲料

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

100年以上の歴史をもつ、ノンアルコール飲料の世界最大手。500以上のブランド、4,700種類以上の製品を展開し、炭酸飲料やジュース、コーヒー、ミネラルウォーター、スポーツドリンクなどを手がけています。事業のスリム化のためボトリング事業のスピノフ（分離）を進め、現在はノンアルコール飲料（濃縮液やシロップを含む）の売上高が全体の83%を占めています（2022年12月期）。「ユニットケース」は全世界のコカ-コーラで使用される共通のケース単位（5.678リットル）です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

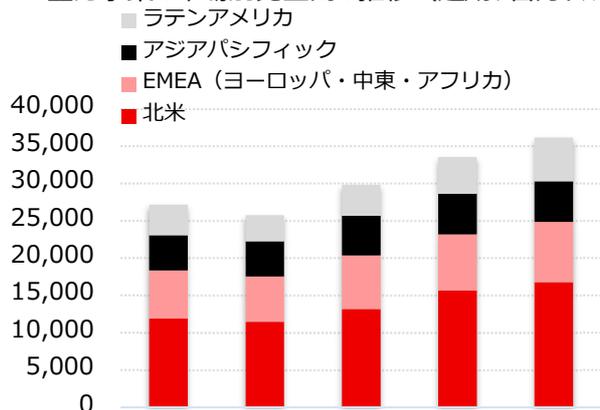
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	43,004	10,223	2.48	1.76	5.6	40.5	27.8
23.12期	45,754	11,611	2.68	1.84	6.0	42.8	28.1
24.12期（予）	46,109	12,148	2.81	1.92	6.2	45.2	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

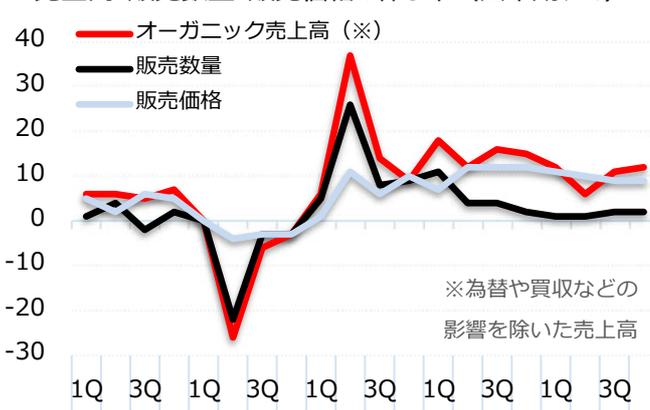
【主要指標】

主力事業の市場別売上高の推移（通期、百万ドル）



19.12期 20.12期 21.12期 22.12期 23.12期  
（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

売上高・販売数量・販売価格の伸び率（四半期、%）



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

同社の製品はレストランやスタジアムなどで提供される比率が高いため、業績はパンデミックの影響を大きく受けました。ただ、21.12期以降は正常化とともに業績が回復しました。健康志向の高まりを受け、無糖の「コカ-コーラゼロシュガー」やフレーバーウォーターなどの非炭酸清涼飲料商品への取り組みを進めています。長期的な成長目標として、オーガニック売上が年率4～6%、営業利益が同6～8%、EPSが同7～9%を掲げています。株主還元策として配当を重視しており、23.12期まで62年連続で増配を実施しました。「コカ-コーラ」という根強い人気商品を支えとした安定成長や連続増配は同社株の魅力と言えます。他方、肥満治療薬ブームによる影響は今のところ限定的ですが、今後の動向には留意する必要があります。

【見通し・注目点】

23.12期4Qの売上と調整後EPSは小幅ながら市場予想を上回りました。オーガニック売上は前年同期比12%増となり、市場予想の同8.8%増を大きく上振れました。12%のうち、2%は販売量の拡大によるものです。24.12期通期のオーガニック売上ガイダンスは前年比6～7%増で、中間値で市場予想（6.56%）をわずかに下回りました。同社は2/15に、23.12期4Qの増配を承認しました。それにより、通期で62年連続の増配を達成しました。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。